

I 全校研究主題

「小中高舎を一貫性でつなぐ取組 ～児童生徒の充実した生活をめざして～」
(2年次研究 2年目)

II 主題設定の理由

学校教育目標の「一人一人が光り輝き、心豊かにたくましく生きる人間を育てる」から「光り輝き、心豊かにたくましく生きる」ことを充実した生活ととらえる。

平成 28～29 年度は、小中高舎で目標や指導内容、支援方法に一貫性をもって取り組み実践を重ねることで、児童生徒が現在と将来において「光り輝き、心豊かにたくましく生きる」充実した生活を送ることをめざしていく。

将来の目指す姿にむけ、児童生徒の現在持っている力やニーズに合った目標を設定し、適切な支援方法で一貫性をもって授業や指導に取り組むことで、児童生徒が小学部から高等部まで主体的に活動し、達成感や充実感を感じることができ、それを積み重ねていくことが将来の充実した生活につながると考え本テーマを設定した。

III 研究の目的

児童生徒の充実した生活をめざし、各学部や寄宿舎間で生活を支える基本的な生活習慣と生活を豊かにする余暇活動について、一貫性のある目標や指導内容や支援方法を検討する。

IV 研究の仮説

各学部や寄宿舎間で、目標や指導内容や支援方法に一貫性を持って取り組むことで、児童生徒が小学部から高等部まで主体的に活動し、達成感や充実感を感じる経験を積み重ねることができ、将来の自立した豊かな生活につなげることができるであろう。

V 研究の内容

- (基本的な生活習慣から) ①着替え・身だしなみ
②食事
(生活を豊かにする) ③余暇活動

1年次 — 目標(目指す姿)、手順表(学部単位のもの)、指導内容表等の作成

- ①着替え・身だしなみ(目標、手順表、指導段階表の作成)
- ②食事(目標、手順表、指導内容表の作成)
- ③余暇活動(目標、内容・場面の整理、余暇活動指導段階表の作成)

2年次 — 手順表、指導内容表等の活用

手順表、指導内容表等をもとに個に応じ工夫された支援方法での実践
(学部キーワードを生かした実践)

- 小学部「できた」
- 中学部「自分から」「自分で」
- 高等部「自己選択、自己決定」

手順表、指導内容表等の検証

VI 研究の方法

○グループ研究会（①着替え・身だしなみ ②食事 ③余暇活動）

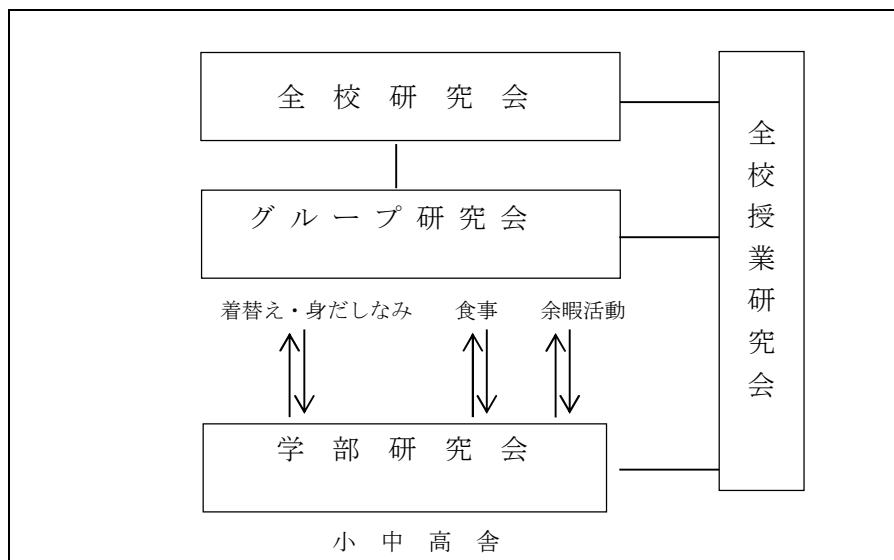
3つの縦割りグループで、目標や手順、指導内容、支援方法について検討する。

○学部研究会

学部の意見をまとめてグループに伝え、またグループからの意見を受け話し合いの内容を共有する。

○全校授業研究会（各学部1回）

各学部の取り組みについて意見交換し、授業改善を図る。



VII 研究経過

< 1年次 >

月	形態	内 容	
4	全校	研究計画の提案	
5	グループ	グループごとの推進計画	
6	学部	学部の現状の取りまとめ	
7	全校 学部 グループ	学部の方向性の意見のまとめ グループでのまとめ作業①	全校授業研究会 (小「食事」・中「着替え」)
8	グループ	グループでのまとめ作業②	
9	グループ	グループでのまとめ作業③	
10	学部	学部の意見のまとめ(目標、手順表、指導内容表等について)	
11	全校		全校授業研究会 (高「選択音楽」)
12	グループ	グループの目標、手順表、指導内容表等の完成	
1	グループ	グループ1年次のまとめ	
2	全校	1年次のまとめの発表	
3		1年次のまとめをホームページへアップ	

< 2年次 >

月	形態	内 容	
4	全校	2年次の研究計画の提案	
5	グループ	推進計画、手順表・指導内容表等の活用について	
6	全校		全校授業研究会 (小・中「着替え」)
7	全校 グループ	学校寄宿舎合同グループ研究会	全校授業研究会 (小・中「食事」)
8	全校		全校授業研究会 (高「選択体育」)
9	グループ	手順表・指導内容表等の活用 (実践)	
10	学部	手順表・指導内容表等について学部の意見	
11	グループ	手順表・指導内容表等の見直し	
12	グループ 全校	グループのまとめ 研究のまとめ	
1	学部	次年度の研究について	
2	全校	次年度の研究についての提案	
3		研究のまとめをホームページへアップ	

VIII 研究の実際

1 グループ研究会

(1) 着替え・身だしなみグループ

① 取り組み

ア 目標の作成

《小学部》 必要な支援を受けながら着替えたり、身だしなみを整えたりすることができる。

《中学部》 着替えの手順が分かり、自分で着替えたり、身だしなみを整えたりすることができる。

《高等部》 場や状況に応じた着替えを一人で行い、整容点検と整理整頓をすることができる。

イ 手順表の作成

《小学部》

(別紙資料1)

1	ハンカチ・ティッシュを出す
2	上着を脱ぐ
3	上着を着る
4	靴を脱ぐ
5	ズボンを脱ぐ
6	ズボンを履く
7	裾を入れる
8	靴を履く
9	ハンカチ・ティッシュを入れる

※児童の実態に応じて、手順を入れ替えたり、イラストなどを加えたりする。

10	服をたたむ
11	高学団は鏡チェック

《中学部・高等部》

(別紙資料2)

◆男子「制服から運動着」			
①ハンカチ・ティッシュを ポケットから出す。 	② ^{がくせいふく} 学生服をぬぐ。 	③ワイシャツをぬぐ。 	④Tシャツを着る。 
⑤くつをぬぐ。 	⑥ ^{せいふく} 制服のズボンをぬぐ。 	⑦ ^{うんどうぎ} 運動着のズボンをはく。 	⑧くつをはく。 
⑨ ^{うんどうぎ} 運動着の長そでを着る。 	⑩ハンカチ・ティッシュを ^{うんどうぎ} 運動着のポケットに入れる。 	⑪ズボンをたたんでハンガーにかけ る。 	⑫ワイシャツ・ブレザーをハンガーに かける。 
<p>※高等部の生活を想定し、使用するハンガーは1本にする。 ※ハンガーに制服をかけるのは、着替えてからにする。</p>			

・生徒の実態に応じて、必要な手順は追加して活用する。

(例：ベルトの着用、鏡を使っての身だしなみの確認 など)

◆男子「運動着から制服」			
①ハンカチ・ティッシュを ポケットから出す。 	② ^{うんどうぎ} 運動着の長そでをぬぐ。 	③Tシャツをぬぐ。 	④ワイシャツを着る。 
⑤くつをぬぐ。 	⑥ ^{うんどうぎ} 運動着のズボンをぬぐ。 	⑦ ^{せいふく} 制服のズボンをはく。 	⑧くつをはく。 
⑨ ^{がくせいふく} 学生服を着る。 	⑩ハンカチ・ティッシュをブレザーの ポケットに入れる。 		

◆女子「制服から運動着」			
①ハンカチ・ティッシュを ポケットから出す。 	②リボンをとって、ブレザーのポ ケットに入れる。 	②ブレザーをぬぐ。 	③くつをぬぐ。 
③スパッツをぬぐ。 	④運動着のズボンをはく。 	⑤スカートをぬぐ。 	⑥くつをはく。 
⑦ブラウスをぬぐ。 	⑧Tシャツを着る。 	⑨運動着の長そでを着る。 	⑩スカート、ブラウス、ブレザーをハ ンガーにかける。 
⑪ハンカチ・ティッシュをブレザーの ポケットに入れる。 			

※高等部の生活を想定し、使用するハンガーは1本にする。
※ハンガーに制服をかけるのは、着替えてからにする。

◆女子「運動着から制服」			
①ハンカチ・ティッシュを ポケットから出す。 	②運動着の長袖をぬぐ。 	③Tシャツをぬぐ。 	④ブラウスを着る。 
⑤スカートをはく。 	⑥くつをぬぐ。 	⑦運動着のズボンをぬぐ。 	⑧スパッツをはく。 
⑨くつをはく。 	⑩リボンをつける。 	⑪ブレザーを着る。 	⑫ハンカチ・ティッシュをブレザーの ポケットに入れる。 

◆「運動着から作業着」			
①ハンカチ・ティッシュを ポケットから出す。 	②運動着の長袖をぬぐ。 <small>うんどうぎ ながそで</small> 	③くつをぬぐ。 	④運動着のズボンをぬぐ。 <small>うんどうぎ</small> 
⑤作業着のズボンをはく。 <small>さぎょうぎ</small> 	⑥くつをはく。 	⑦作業着の上を着る。 <small>さぎょうぎ うえ き</small> 	⑧ハンカチ・ティッシュをプレザーの ポケットに入れる。 
◆「作業着から運動着」			
①ハンカチ・ティッシュを ポケットから出す。 	②作業着の長袖をぬぐ。 <small>さぎょうぎ ながそで</small> 	③くつをぬぐ。 	③作業着のズボンをぬぐ。 <small>さぎょうぎ</small> 
④運動着のズボンをはく。 <small>うんどうぎ</small> 	⑤くつをはく。 	⑥運動着の長袖を着る。 <small>うんどうぎ ながそで き</small> 	⑦ハンカチ・ティッシュをプレザーの ポケットに入れる。 

《寄宿舎》

児童生徒が所属する学部準ずる。

ウ 指導段階表の作成 (別紙資料3)

エ 手順表・指導段階表の活用について

- ・将来の目指す姿について共通理解を図り、指導内容の手掛かり、目安として活用し、指導に生かした。
- ・指導段階表は、着替え・身だしなみ指導の引き継ぎ資料としての活用を検討した。

②まとめ

ア 成果

- ・手順表や指導段階表を活用して、個に応じ、学部キーワードを生かした実践を重ねた。そして、実践をもとに、手順表や指導段階表を検証し、改善することができた。
- ・指導段階表は指導内容の手掛かり・目安として活用していく他に、児童生徒の着替え・身だしなみについての引き継ぎ資料としても活用できるようにした。

イ 課題

- ・児童生徒によっては、手順表や指導段階表どおりには取り組むことができなかった。各学部、寄宿舎間で一貫した指導をしていく上で、手順表や指導段階表は指導の基本となるものだが、児童生徒の実態は様々であり、実態に応じて、柔軟に活用していく必要がある。
- ・実践をもとに指導段階表の項目を精選したが、まだ項目が多い。今後、活用しやすい指導段階表にするために、更に改善していく必要がある。

ウ 今後に向けて

- ・手順表・指導段階表を今後も継続していく。

- ・指導段階表を引き継ぎ資料として活用していくために、活用方法を全職員で確認し、今後も指導内容や指導方法に一貫性をもって取り組んでいく。(別紙資料4)

(2) 食事グループ

① 取り組み

ア 目標の作成

- ・学部毎にはせず全体の目標とした。

マナーを守り楽しく食事をすることができる。

イ 手順表の作成

(別紙資料5)

<p>【学校】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 手を洗う 2 テーブルを拭く 3 配膳をする 4 食事をとる 5 テーブルを拭く 6 下膳する 7 歯磨きをする 	<p>【寄宿舍】※お盆は使わない</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 手を洗う 2 棟ごとにテーブルを拭き、配膳をする 3 食事をとる 4 テーブルを拭く 5 下膳する 6 歯磨きをする
---	---

ウ 指導内容表の作成 (別紙資料6)

- ・食事場面でのマナーについての指導内容とする。「いただきます」から「ごちそうさま」まで)
- ・表の横は同じ段階ではない。

エ 手順表、指導段階表の活用について

② まとめ

ア 成果

- ・手順表、内容表を活用し、学部キーワードを生かした実践を行った。学校、寄宿舍とで共通理解を図りながら進めることができた。また、学校と家庭とで連携して取り組んだことで成果につながった事例もあり、指導の方向性を決めるのに役立った。
- ・実践していく中で指導内容表の内容だけでなく、高等部では、他者の気配りへの指導が必要であることを再確認できた。

イ 課題

- ・高等部で挙げた3つの目標(拭く、閉める、決める)については、高等部学部集会等で生徒に周知していく必要がある。
- ・学校、寄宿舍で対象生徒を決め、取り組みや支援方法、手立てについて話し合う機会が必要である。

ウ 今後に向けて

- ・指導内容表の活用を継続していくとともに、指導内容表を引き継ぎ資料としても活用していく。(別紙資料7)

(3) 余暇活動グループ

① 取り組み

ア 目標の作成

全体目標

余暇の過ごし方についての知識・技能を広げ、余暇を楽しく主体的に過ごすことができる。

《小学部》 身の回りにある様々な余暇活動を知り、楽しむことができる。

《中学部》 社会資源を利用し、余暇活動の経験を広げることができる。

《高等部》 ルールやマナーを守って主体的に計画し楽しむことができる。

イ 余暇活動の内容の整理 (別紙資料8)

学校と寄宿舎において展開される余暇活動の内容(余暇活動につながる内容)を、表に整理した。

ウ 余暇活動につながる場面の整理 (別紙資料9)

学校において展開される余暇活動につながる場面を表に整理した。

エ 余暇活動段階表の作成 (別紙資料10)

余暇活動における主な要素について、小学部から高等部までのつながり(連続性)がイメージできる表としてまとめた。

オ 余暇活動事例の情報交換と事例集の作成

- ・各学部、寄宿舎から余暇につながる活動・余暇活動の事例をもち寄り、情報交換・意見交換を行った。
- ・2年次は、事例の「目的及び目標」の欄に余暇活動段階表のどの部分をねらいとしているかを明記した。
- ・共有フォルダーに事例のデータを保存し、余暇活動を実践していく際の手掛かりにできるようにした。

②まとめ

ア 成果

- ・余暇活動の内容や活動の充実につながる場面を表にし、その要素を段階表に表したことで余暇活動を広げていくための手掛かりを示すことができた。
- ・事例を紹介し合うことで取り組みを共有し、参考にすることができた。
- ・同じ内容の取り組みの際には、学校と寄宿舎で支援方法について情報交換し連携して取り組むことで、生徒の活動を広げることができた。
- ・寄宿舎では2年次は、「屋内」「運動系」「女子棟(園芸等)」に分類して集団での活動に焦点を絞って取り組んだ。様々な経験をすることで余暇活動の選択肢の拡大につながった。

イ 課題

- ・事例の紹介により取り組みを共有したり、同じ内容の際には情報交換をし連携をして取り組んだが、同一の生徒に一貫性をもって目標を立て、指導内容や支援方法を共通理解して取り組むことが課題である。
- ・余暇活動を充実させるためには、家庭の理解と協力を得て、連携して進めていかなければならない。

ウ 今後に向けて

- ・実践事例をカテゴリー毎に整理し、今後の取り組みの参考にできるようにする。
- ・卒業後の余暇活動につなげるため、今現在の興味・関心を把握し、様々な場面で経験を広げられるよう支援をしていく。年度末に余暇活動の内容表を使って興味・関心を◎、○、△等でチェックし、引き継ぎに活用する。
- ・情報を共有し、学校で学んだことを寄宿舎の生活の中で実践し、余暇支援を展開していく。
- ・学校・寄宿舎での取り組みの様子を家庭に伝え、家庭の理解と協力を得て家庭における余暇の充実を図っていく。

- ・卒業や復興に伴うコミュニティの変化に応じて、その地域で活用できる余暇資源の情報を提供し、地域とのつながりを深め、余暇の充実を図る。

2 学部研究会

- ・各グループで作成した指導内容表等について検討し、改善点や今後の活用法などについての意見をまとめ、グループ研究につなげた。
- ・グループでは、学部からの意見を受けて内容表等の改善を図った。

3 全校授業研究会

- ・3学部実施（小・中学部は2回、高等部は1回実施）
- ・手順表や指導内容表の活用の仕方や具体的な支援に対する意見交換を行い、授業改善につなげることができた。

第1回 小学部・中学部	<ul style="list-style-type: none"> ・6月13日（火） 着替え・身だしなみ ・小学部6年男子 日常生活の指導「朝の着替え」（ビデオ提案） ・中学部2年女子 日常生活の指導「朝・帰りの着替え」（ビデオ提案）
第2回 小学部・中学部	<ul style="list-style-type: none"> ・7月11日（火） 食事 ・小学部2年 日常生活の指導「給食」（ビデオ提案） ・中学部1年 日常生活の指導「給食」（ビデオ提案）
第3回 高等部	<ul style="list-style-type: none"> ・8月29日（火） 余暇活動 ・1～3年 選択教科「体育」

IX まとめ

1 成果

- ・各グループの作成した目標（目指す姿）にむけて、手順表・指導内容表等を活用した実践に取り組むことで、小中高舎で目標や指導内容に一貫性をもって支援にあたることができた。
- ・縦割りグループでの実践事例の検討により、小中高舎で情報を共有し、つなぐ取組を意識し連携した支援を行うことができた。

2 課題

- ・グループ研究会の回数が限られ、実践の積み重ねと支援方法の検討が十分できず、一貫性のある支援方法について研究を深めることができなかった。

3 今後に向けて


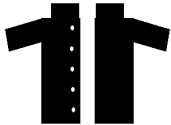










- ・今後も手順表、指導内容表等を活用した実践を重ねていくとともに、指導段階表や指導内容表等を引き継ぎ資料として活用し、一貫性のある支援を継続する。
- ・個別の指導計画や個別の生活指導計画（寄宿舎）、個別の教育支援計画の作成の際には学校と寄宿舎の担当が検討する場を設け、双方の共通理解のもと目標や指導内容や支援方法を設定し、一貫性のある支援に取り組んでいく。
- ・教職員や家庭や地域が連携した個別の指導計画や個別の生活指導計画（寄宿舎）、個別の教育支援計画の活用と実践により、児童生徒の「光り輝き、たくましく生きる」充実した生活の実現を目指していく。

着替え手順表 《小学部》

1	ハンカチ・ティッシュを出す
2	上着を脱ぐ
3	上着を着る
4	靴を脱ぐ
5	ズボンを脱ぐ
6	ズボンを履く
7	裾を入れる
8	靴を履く
9	ハンカチ・ティッシュを入れる
10	服をたたむ
11	高学団は鏡チェック










※児童の実態に応じて、手順を入れ替えたり、イラストなどを加えたりする。

◆男子「制服から運動着」









①ハンカチ・ティッシュをポケットから出す。 	② ^{がくせいふく} 学生服をぬぐ。 	③ワイシャツをぬぐ。 	④Tシャツを着る。 
⑤くつをぬぐ。 	⑥ ^{せいふく} 制服のスボンをぬぐ。 	⑦ ^{うんどうぎ} 運動着のスボンをはく。 	⑧くつをはく。 
⑨ ^{うんどうぎ} 運動着の長そでを着る。 	⑩ハンカチ・ティッシュを ^{うんどうぎ} 運動着のポケットに入れる。 	⑪ズボンをたたんでハンガーにかけ る。 	⑫ワイシャツ・ブレザーをハンガー にかける。 

※高等部の生活を想定し、使用するハンガーは1本にする。
※ハンガーに制服をかけるのは、着替えてからにする。

◆男子「運動着から制服」

①ハンカチ・ティッシュを ポケットから出す。 	② ^{うんどうぎ} 運動着の長袖をぬぐ。 	③Tシャツをぬぐ。 	④ワイシャツを着る。 
⑤くつをぬぐ。 	⑥ ^{うんどうぎ} 運動着のスボンをぬぐ。 	⑦ ^{せいふく} 制服のスボンをはく。 	⑧くつをはく。 
⑨ ^{がくせいふく} 学生服を着る。 	⑩ハンカチ・ティッシュをブレザー のポケットに入れる。 		

◆「運動着から作業着」

①ハンカチ・ティッシュを ポケットから出す。 	② ^{うんどうぎ} 運動着の長袖をぬぐ。 	③くつをぬぐ。 	④ ^{うんどうぎ} 運動着のスボンをぬぐ。 
⑤ ^{さぎょうぎ} 作業着のスボンをはく。 	⑥くつをはく。 	⑦ ^{さぎょうぎ} 作業着の上を着る。 	⑧ハンカチ・ティッシュをブレザー のポケットに入れる。 

◆「作業着から運動着」

<p>①ハンカチ・ティッシュを ポケットから出す。</p> 	<p>②作業着の長袖をぬぐ。 <small>さぎょうぎ ながそで</small></p> 	<p>③くつをぬぐ。</p> 	<p>③作業着のズボンをぬぐ。 <small>さぎょうぎ</small></p> 
<p>④運動着のズボンをはく。 <small>うんどうぎ</small></p> 	<p>⑤くつをはく。</p> 	<p>⑥運動着の長袖を着る。 <small>うんどうぎ ながそで</small></p> 	<p>⑦ハンカチ・ティッシュをプレザー のポケットに入れる。</p> 

指導段階表

			1	2	3	4	5	備考
動作	姿勢		床に座って行う。	椅子に座って行う。	支えを利用して、立って行う。	立って行う。		
	上着を脱ぐ	運動着	教師の支援を受けながら、服を上引っ張って脱ぐことができる。	自分で脱ぐ。	裏返らないように脱ぐ			
		腕先抜き	教師の支援を受けて、服を脱ぐことができる。	自分で脱ぐ。	服が裏返らないように脱ぐ。			
	制服作業着		教師の支援を受けて、脱ぐ。	部分的に支援を受けて脱ぐ。	自分で脱ぐ。	服が裏返らないように脱ぐ。		
	上着を着る	運動着	教師の支援を受けて、着る。	教師の支援を受けて顔を出し、後は自分で着る。	自分で裾をたくし上げて顔を出して、着る。	自分で、前後、裏表を確認して着る。		
		制服作業着	教師の支援を受けて、着る。	部分的に支援を受けて着る。	自分で着る。	自分で、前後、裏表を確認して着る。		
	ズボンを脱ぐ		ひざ下までズボンを引き下げる。後は、教師と行う。	声掛けを受けて、脱ぐ。	自分で脱ぐ。	服が裏返らないように脱ぐ。		
	ズボンを履く		教師がひざ上まで履かせた状態から、自分で、上にあげる。	声掛けを受けて、履く。	座って、自分で履く。	立って、自分で履く。		
	靴を脱ぐ		自分でかかとをはずし、教師が脱がす。	手を使って、自分で脱ぐ。	手を使わずに、自分で脱ぐ。			
	靴を履く		座って、かかとを引っ張って履く。	立って、壁などに手をついて、かかとを引っ張って履く。	声掛けを受けて、履く。	自分で履く。		
靴下を脱ぐ		教師がかかと下まで靴下を下げた状態から、脱ぐ。	声掛けを受けて、脱ぐ。	自分で脱ぐ。	靴下が裏返らないように脱ぐ。			
靴下を履く		教師がかかと下まで靴下を上げた状態から、自分で引き上げる。	教師がつま先まで入れた状態から、自分で引き上げる。	声掛けを受けて、自分で履く。	自分で履く。	かかとの位置を合わせて、履く。		

			1	2	3	4	5	6	備考
操作	ファスナー		教師と一緒にファスナーの操作ができる。	ファスナーの上下操作ができる。	教師が金具の差し込みを行い、自分でファスナーを操作する。	教師と一緒に金具の差し込みを行う。後は、自分で操作する。	すべて自分で操作する。		
	ボタン	はずす	教師と一緒にできる。	部分的に支援を受けて、できる。	自分でできる。				
		かける	教師と一緒にできる。	部分的に支援を受けて、できる。	自分でできる。				
	スナップボタン		教師と一緒にできる。	部分的に支援を受けて、できる。	自分でできる。				
	鍵ホック		教師と一緒にできる。	部分的に支援を受けて、できる。	自分でできる。				
	ベルト	通す	ズボンを履く前に、教師と一緒に通す。	ズボンを履く前に、自分で通す。	ズボンを履いたまま、教師と一緒に通す。	ズボンを履いたまま、自分で通す。			
		留める	教師と一緒に留める。	部分的に支援を受けて、留める。	自分で留める。	自分の体のサイズに合わせて、留めることができる。			
	ハンガーかけ		ハンガーをラック等に掛けたり外したりする。	机に服を置いて、服の両腕をハンガーに掛ける。	教師の支援を受けながら、空中で衣服の両腕をハンガーに掛ける。	衣服がずれないように整えて、ハンガーに掛ける。	1本のハンガーに整えて掛けることができる。	どんな衣服、ハンガーの形状でも掛けることができる。	
	たたみ方		教師と一緒に机上で畳む。	部分的に支援を受けて、机上で畳む。	自分で、机上で畳む。	机を使わずに、声掛けで畳む。	机を使わずに、自分で畳む。	きれいに自分で畳んで、かごや鞆に収納することができる。	
	服の裏返しをなおす		教師と一緒に直す。	声掛けを受けて、直す。	自分で直す。				

			1	2	3	4	5	備考
認知・理解	衣服の前後		目印を見て、衣服の前後が分かる。	タグや首回りを見て、前後が分かる。	服の形をみて、前後が分かる。			
	衣服の表裏		目印を見て、衣服の裏表が分かる。	タグや縫い目を見て、裏表が分かる。				
	靴の左右		目印を見て、靴の左右が分かる。	靴の形を見て、左右が分かる。				
	気温に合った衣服		教師の指示を聞いて、脱ぎ着する。	天候をみて判断する。	活動に合わせて判断する。			
身だしなみ	裾の始末		教師と一緒に裾を入れる。	裾の一部分を、自分で入れる。	全部の裾を、自分で入れる。	自分で鏡を見て、裾を確認する。		
	襟		鏡を見て、教師と一緒に直す。	鏡を見て、自分で直す。	鏡を見ないで、自分で直す。			
	髪・爪の処理		声掛けを受けて、気づく。	定期的に処理する。	自分で気づいて、処理する。			
	整髪		鏡を見て、教師と一緒に髪を整える。	自分で鏡を見て、髪を整える。				
	ハンカチちり紙の携帯		手渡されたハンカチ等をポケットに入れる。	声掛けを受けて、決まった場所からハンカチ等をポケットに入れる。	自分で用意して、ハンカチ等をポケットに入れる。	着替えの後に、ハンカチ等をポケットに入れ替える。		

<着替え・身だしなみ 引き継ぎ資料>

記入日： 年 月 日

学部 年 組 氏名：

指導段階表

できない 小学部 中学部 高等部

			1	2	3	4	5	備考
動作	姿勢		床に座って行う。	椅子に座って行う。	支えを利用して、立って行う。	立って行う。		
	上着を脱ぐ	運動着	頭先抜き	教師の支援を受けながら、服を上引っ張って脱ぐことができる。	自分で脱ぐ。	裏返らないように脱ぐ		
			腕先抜き	教師の支援を受けて、服を脱ぐことができる。	自分で脱ぐ。	服が裏返らないように脱ぐ。		
		制服作業着	教師の支援を受けて、脱ぐ。	部分的に支援を受けて脱ぐ。	自分で脱ぐ。	服が裏返らないように脱ぐ。		
	上着を着る	運動着	教師の支援を受けて、着る。	教師の支援を受けて顔を出し、後は自分で着る。	自分で裾をたくし上げて顔を出して、着る。	自分で、前後、裏表を確認して着る。		
		制服作業着	教師の支援を受けて、着る。	部分的に支援を受けて着る。	自分で着る。	自分で、前後、裏表を確認して着る。		
	ズボンを脱ぐ		ひざ下までズボンを引き下げる。後は、教師と行う。	声掛けを受けて、脱ぐ。	自分で脱ぐ。	服が裏返らないように脱ぐ。		
	ズボンを履く		教師がひざ上まで履かせた状態から、自分で、上にあげる。	声掛けを受けて、履く。	座って、自分で履く。	立って、自分で履く。		
	靴を脱ぐ		自分でかかとをはずし、教師が脱がす。	手を使って、自分で脱ぐ。	手を使わずに、自分で脱ぐ。			
	靴を履く		座って、かかとを引っ張って履く。	立って、壁などに手をついて、かかとを引っ張って履く。	声掛けを受けて、履く。	自分で履く。		
	靴下を脱ぐ		教師がかかと下まで靴下を下げた状態から、脱ぐ。	声掛けを受けて、脱ぐ。	自分で脱ぐ。	靴下が裏返らないように脱ぐ。		
	靴下を履く		教師がかかと下まで靴下を上げた状態から、自分で引き上げる。	教師がつま先まで入れた状態から、自分で引き上げる。	声掛けを受けて、自分で履く。	自分で履く。	かかとの位置を合わせて、履く。	

			1	2	3	4	5	6	備考
操作	ファスナー		教師と一緒にファスナーの操作ができる。	ファスナーの上下操作ができる。	教師が金具の差し込みを行い、自分でファスナーを操作する。	教師と一緒に金具の差し込みを行う。後は、自分で操作する。	すべて自分で操作する。		
	ボタン	はずす	教師と一緒にできる。	部分的に支援を受けて、できる。	自分でできる。				
		かける	教師と一緒にできる。	部分的に支援を受けて、できる。	自分でできる。				
	スナップボタン		教師と一緒にできる。	部分的に支援を受けて、できる。	自分でできる。				
	鍵ホック		教師と一緒にできる。	部分的に支援を受けて、できる。	自分でできる。				
	ベルト	通す	ズボンを履く前に、教師と一緒に通す。	ズボンを履く前に、自分で通す。	ズボンを履いたまま、教師と一緒に通す。	ズボンを履いたまま、自分で通す。			
		留める	教師と一緒に留める。	部分的に支援を受けて、留める。	自分で留める。	自分の体のサイズに合わせて、留めることができる。			
	ハンガーかけ		ハンガーをラック等に掛けたり外したりする。	机に服を置いて、服の両腕をハンガーに掛ける。	教師の支援を受けながら、空中で衣服の両腕をハンガーに掛ける。	衣服がずれないように整えて、ハンガーに掛ける。	1本のハンガーに整えて掛けることができる。	どんな衣服、ハンガーの形状でも掛けることができる。	
	たたみ方		教師と一緒に机上で畳む。	部分的に支援を受けて、机上で畳む。	自分で、机上で畳む。	机を使わずに、声掛けで畳む。	机を使わずに、自分で畳む。	きれいに自分で畳んで、かごや鞆に収納することができる。	
	服の裏返しをなおす		教師と一緒に直す。	声掛けを受けて、直す。	自分で直す。				

			1	2	3	4	5	備考
認知・理解	衣服の前後		目印を見て、衣服の前後が分かる。	タグや首回りを見て、前後が分かる。	服の形をみて、前後が分かる。			
	衣服の表裏		目印を見て、衣服の裏表が分かる。	タグや縫い目を見て、裏表が分かる。				
	靴の左右		目印を見て、靴の左右が分かる。	靴の形を見て、左右が分かる。				
	気温に合った衣服		教師の指示を聞いて、脱ぎ着する。	天候をみて判断する。	活動に合わせて判断する。			
身だしなみ	裾の始末		教師と一緒に裾を入れる。	裾の一部分を、自分で入れる。	全部の裾を、自分で入れる。	自分で鏡を見て、裾を確認する。		
	襟		鏡を見て、教師と一緒に直す。	鏡を見て、自分で直す。	鏡を見ないで、自分で直す。			
	髪・爪の処理		声掛けを受けて、気づく。	定期的に処理する。	自分で気づいて、処理する。			
	整髪		鏡を見て、教師と一緒に髪を整える。	自分で鏡を見て、髪を整える。				
	ハンカチ ちり紙の携帯		手渡されたハンカチ等をポケットに入れる。	声掛けを受けて、決まった場所からハンカチ等をポケットに入れる。	自分で用意して、ハンカチ等をポケットに入れる。	着替えの後に、ハンカチ等をポケットに入れ替える。		

食事手順表

別紙資料 5

【学校】

- 1 手を洗う
- 2 テーブルを拭く
- 3 配膳をする
- 4 食事をとる
- 5 テーブルを拭く
- 6 下膳する
- 7 歯磨きをする

【寄宿舍】 ※お盆は使わない

- 1 手を洗う
- 2 棟ごとに当番がテーブルを拭き、配膳をする
- 3 食事をとる
- 4 テーブルを拭く
- 5 下膳する
- 6 歯磨きをする

食事 指導内容表

別紙資料 6

正しい姿勢			楽しい食事		食べ物の大切さ・感謝の心	
姿勢	道具の使用	器の持ち方	食べ方・かみ方	会 話	挨拶・感謝の心	残さず食べる
・きちんとすに座って食べる（足ぶらぶら・足のばし・あぐら・足組なし）	・スプーン、フォークを握り持ちで使う。	・器に手を添える。	・一口分ずつ口に入れる。	・口の中の物を飲み込んでから話す。	・適切な声の大きさを「いただきます」の挨拶をする。	・嫌いな物を好きな物と一緒に少し食べる。
・背筋を伸ばして食べる。	・スプーン、フォークを鉛筆持ちで使う。	・器を持つ。	・かきこまないでゆっくり食べる。	・会話の内容に気を付ける。	・適切な声の大きさを「ごちそうさまでした」の挨拶をする。	・嫌いな物を小さくして一口食べる。
・肘をつかないで食べる。	・箸（介助箸）を使う。	・正しい持ち方で器を持つ。（上は親指で押さえ、底は4指で支える）	・良くかんで食べる。	・適切な大きさを話す。	・調理員さんに感謝の気持ちを伝える。	・嫌いな物も少し食べる。（決めた量）
・よそ見をせず、正面を向いて食べる。	・正しい箸の持ち方で使う。	・大きい皿やどんぶりは手を添える。	・音を立てずに食べる。			・好き嫌いせず残さず食べる。
	・マナーを守って箸を使う。（刺し箸、寄せ箸等をしてない）		ごはんとおかず、汁物を交互に食べる。（三角食べ）			・食べられる量を考えて配膳する。

年 組

記入者

(年 月)

正しい姿勢			楽しい食事		食べ物の大切さ・感謝の心	
姿勢	道具の使用	器の持ち方	食べ方・かみ方	会 話	挨拶・感謝の心	残さず食べる
・きちんとすに座って食べる(足ぶらぶら・足のぼし・あぐら・足組なし)	・スプーン、フォークを握り持ちで使う。	・器に手を添える。	・一口分ずつ口に入れる。	・口の中の物を飲み込んでから話す。	・適切な声の大きさを「いただきます」の挨拶をする。	・嫌いな物を好きな物と一緒に少し食べる。
・背筋を伸ばして食べる。	・スプーン、フォークを鉛筆持ちで使う。	・器を持つ。	・かきこまないでゆっくり食べる。	・会話の内容に気を付ける。	・適切な声の大きさを「ごちそうさまでした」の挨拶をする。	・嫌いな物を小さくして一口食べる。
・肘をつかないで食べる。	・箸(介助箸)を使う。	・正しい持ち方で器を持つ。(上は親指で押さえ、底は4指で支える)	・良くかんで食べる。	・適切な大きさを話す。	・調理員さんに感謝の気持ちを伝える。	・嫌いな物も少し食べる。(決めた量)
・よそ見をせず、正面を向いて食べる。	・正しい箸の持ち方で使う。	・大きい皿やどんぶりは手を添える。	・音を立てずに食べる。			・好き嫌いせず残さず食べる。
	・マナーを守って箸を使う。(刺し箸、寄せ箸等しない)		ごはんとおかず、汁物を交互に食べる。(三角食べ)			・食べられる量を考えて配膳する。
<p>備考(必要な支援、有効だった支援等)</p> <p>(イラスト、カード、画像等がある場合はSVフォルダーをご活用ください)</p>						

<余暇グループ>

別紙資料 8

余暇活動の内容

身体活動	・競技スポーツ ・レクリエーションスポーツ ・ダンス ・外遊び ・遊具遊び
創作活動	・絵 ・造形 ・手芸 ・料理 ・ブロック ・積み木
表現活動	・演劇 ・踊り ・歌 ・楽器演奏
鑑賞	・テレビ ・ビデオ、DVD ・映画 ・動画、インターネットの閲覧 ・好きな音楽を聞く ・スポーツ観戦 ・(雑誌などの)本を見る
収集	・好きな物のコレクション ・写真、雑誌などのスクラップ
外出	・買い物 ・外食 ・散歩 ・アミューズメント ・施設利用 ・カラオケ
集い	・お茶会 ・誕生会 ・クリスマス会 ・忘、新年会 ・グループ遊び
教養	・茶道、華道 ・楽器演奏 ・パソコン、タブレット ・囲碁、将棋 ・読書
リラックス	・アロマテラピー ・スヌーズレン ・個人的趣向による活動
その他	・カードゲーム、ボードゲーム、ゲーム ・玩具遊び ・地域行事(祭事) ・地域のイベント

余暇活動につながる場面

	場 面	内 容
教 科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽 ・ 体育 ・ 図画工作、美術 ・ 家庭科 ・ 産業社会と人間 ・ 国語 ・ 算数、数学 	<p>音楽鑑賞、歌、合奏、楽器演奏、ダンス、スポーツ</p> <p>絵画、制作、調理、手芸</p> <p>書道、読書、劇、読み聞かせ、漢字検定、買い物</p>
合わせた 指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活単元学習 ・ 遊びの指導 ・ 作業学習 	<p>余暇施設利用（カラオケ、ボウリング、アミューズメント、レンタルビデオ店、外食店、図書館）</p> <p>乗り物の利用（バス、BRT、鉄道）</p> <p>買い物（スーパー、ホームセンター、100円ショップ、コンビニエンスストア）</p> <p>調理、手芸、園芸、農耕、陶芸、木工</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合的な学習の時間 ・ クラブ活動 ・ 休み時間 ・ 放課後課外 	<p>カードゲーム、ボードゲーム、読書、音楽鑑賞、</p> <p>スポーツ、遊具遊び、パソコン、集団ゲーム、</p> <p>ダンス、茶道</p> <p>地域行事（祭事、伝統芸能）</p>

※内容は場面を跨ぐものもあり。

		小学部	中学部	高等部
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・ ルールやマナーを守って、主体的に楽しむ。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の場や種類を広げて、楽しむ。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な経験を積み、楽しむ。 		
関心・意欲	活動の選択・決定等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仲間と相談して計画、実行する。 ・ 情報源を活用して調べる、選ぶ。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分で好きな活動を選択する。 ・ 友達がやりたいことを一緒に活動する。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 興味関心があるもので活動する。 ・ 支援者に提案されたもので活動する。 		
	活動の場	<ul style="list-style-type: none"> ・ 居住地を中心に活動する。 ・ 公共交通機関を利用して活動する。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 近所の施設、商店等を利用して活動する。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校（寄宿舍）内、校地内等で活動する。 ・ 支援者の目の届く範囲で活動する。 		
	集団規模	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5～10人程度の集団（友達、先輩・後輩）で活動する。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 2～3人程度の集団（友達同士）で活動する。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人で活動する。・ 支援者（担任、学年の教師）と一緒に活動する。 		

知識・ 技能	道具等の扱い	<ul style="list-style-type: none"> ・用具等を自分で準備、片付け、管理をする。
		<ul style="list-style-type: none"> ・自分で選んで準備する。 ・様々な用具、遊具、器具を使って楽しむ。
		<ul style="list-style-type: none"> ・支援者が準備したものを利用して活動する。 ・簡単な用具や遊具を使って楽しむ。
	ルール、マナー	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的なルール、マナーを守って活動する。 ・利用方法などを自分で調べる。
その他	支援上の配慮など	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単なルールや決まりを守る。 ・安全を意識して活動する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・遊び方を理解して（ルールなどの支援を受けながら）活動する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・地域等の余暇活動資源の紹介。
	連絡・連携	<ul style="list-style-type: none"> ・興味、関心に沿った活動内容、場の提案。
		<ul style="list-style-type: none"> ・多種、多様な活動の提案。
		<ul style="list-style-type: none"> ・学校・寄宿舍、家庭、地域との情報交換、連携